

堀江廣海

福井市議会議長

Hironori Horie

ほりえ・ひろみ 昭和17年6月22日生まれ。72歳。大谷大学文学部を卒業と同時に福井市役所に奉職。企画財政部長を経て平成13年3月収入役。1期務めた後、平成19年4月市議に初当選。3期目。荒木新保町。

県都福井市の議長に就任した堀江廣海氏。市職員から幹部、収入役を経て、今春市議3期目当選。市政に關わって約半世紀、福井市を知り尽くしているだけにまちづくりにかける思いは他に比類なきものがある。

まちなかでの公共投資に目が行きがちだが、生活者の目線にたった政策、施策とのバランスをしっかりと見極めていく必要がある。

Q議長就任おめでとうございます

ありがとうございます。

まず、県都福井市の課題やまちづくりについてのお考えをお聞かせください。

このまま手をこまねいていけば、本市の人口減少・少子高齢化はますます加速し、地域の経済や社会システム自体が危機的な状況を迎えます。

堀江廣海福井市議会議長 国の機関の推計によれば、現在26万7千人とされる本市の人口は2040年までに約5万人減少するとあり、14歳以下の年少人口は14%から11%に、65歳以上の高齢者人口は25%から38%になるとされ

人口減少への対策は、実効性のある取り組みが1年遅れば、その回復に数年を要するといわれており、子供を安心して生み・育てられる環境づくり」と 福井で生まれ育

った若者が福井で暮らせるための雇用の場の創出」に早急に取り組まなければならないと思っています。

もう一点は、安全安心のまちづくりです。全国各地で毎

年のように集中豪雨や大型台風による被害が発生している状況を考えますと、単なる異常気象と片付けるのではなく、これまでに想定していなかった水準で災害に対する備えをすることが必要になってきます。市民が安全・安心な生活を送ることは、行政の役割の根幹と考えています。

国体の開催や北陸新幹線の敦賀開業を控え、まちなかの公共投資に目が行きがちですが、生活者の目線にたった政策、施策とのバランスをしっかりと見極めていく必要がある

と考えています。

それと、農林水産業の再生も重要と考えます。大都市圏と地方の違いは、農地や海、山、川に代表される豊かな自然であり、そこから生み出される農林水産物は、地方にとって重要な産業となっていてます。ところが、流通や小売りの部分を都市圏の企業が行っている現状の下では、地方は、単なる食材、食料の供給地としての役割しか果たしていません。

今、大都市圏と地方の格差が問題視されています。地方の特徴であり、強みである農林水産業を、所謂「儲かる産業」として再生することは大都市圏と地方の格差是正のために取り組むべき喫緊の課題とと考えています。